

# ふれあい センター

## 老人のつどい開催

例年開催されている「妹背牛町老人の集い」(主催：町老人クラブ連合会)が2月27日、老人福祉センターにおいて開催されました。参加対象となるのは、妹背牛に住む満60歳以上の方



で、約100名の方が集いました。開会式では、石原敏之老人クラブ連合会長より「高齢者の交流と親睦を深め、楽しい時

間を過ごしてほしい」と挨拶、併せて町老人福祉功労者表彰が行われました。老人クラブの発展に大きく貢献されたとし、村上榮一さん、北原弘一さん、有馬伸一さん、藤原繁さんに表彰状が贈られました。その後は、講演会が行われ、午後からは日頃から皆さんが練習されきたカラオケで自慢の喉を披露したり、軽快なダンスで参加者を魅了しました。

## カーリングで健康に!

60歳以上の選手による「2018北海道シニアオープンカーリング大会」(道高齢者カーリング愛好会主催)が3月3日~4日の2日間、町カーリングホールで行われました。町内外から16チームが集い、4ブロックに分かれて



リーグ戦を行います。決勝トーナメントに進めるのは10チーム。珍プレーには笑いが起こり、スパープレーには惜しめない拍手が贈られ、和気藹々とした笑顔が溢れる楽しい大会となりました。優勝：テントリース(妹背牛町)、準優勝：ひまわり(名寄市)、3位：月寒中央クラブ(札幌市)

## 一人で悩まず相談を

2月17日わかち愛もせうしひろばにおいて、「誰にもわかる成年後見制度」と題して、講演会が開かれました。りんどう法律事務所 富田佳弁護士、NPO法人新十津川びあネツトワーク 小玉博崇事務局長を招き、認知症や金銭管理、財産処分等の身近な問題を取り上げ「成年後見制度」を分かりやすく説明。およそ40人の参加者も、実際にあった事例などを交えた解説に、時折うなづきながら真剣に耳を傾けていました。認知症などの病気は誰にでも起こりうる問題としたうえで、「病気になっても、信頼できる人たちと元気に暮らしていけることが大切」と話し、一人で抱え

込まずに相談してほしいと参加者に呼びかけ、講演会を締めくくりました。



## 交通安全の思いを込めて

毎年、交通安全を願って手作りのマスコットを寄贈して下さる、耳浦さん。今年はどんなマスコットなのかと楽しみに自宅へ伺うとテーブルの上には、真っ赤な毛糸で編まれた、可愛い「だるま」が並べられていました。



「ボケ防止のためにと作り続けて、もう10年にもなりました。こんなに長く続くとは思っていなかった」と話し、今ではデザインを考えるのも楽しみの一つになっています。「貰ってくれる人が喜んでくれればうれしい、元気なうちには作り続け、少しでも役に立ってくれれば励みにもなる」と笑顔をのぞかせ、次のマスコット作りに思いを巡らせていました。

## 保育所雛祭り



3月2日、保育所でちょっぴり早い雛祭りを楽しみました。ホールのステージにはお雛様が飾られて、園児みんなでお雛様の歌を元気に歌いました。先生手作りの冠や烏帽子を付け、着物を着ればお内裏様とお雛様に変身。特設のひな壇でニッコリ笑顔で記念撮影。順番を待っている子どもたちから「かわいい～」と声を掛けられ、はにかむ姿も。

また、この日の給食は、子どもたちが大好きな、から揚げやハンバーグなどが用意された雛祭りの特別メニュー。着物を着てお雛様になりきるのも楽しいけれど、給食の時間も待ち遠しい様子の子もたちでした。

## ペペル樽祭り開催

毎年恒例となっているペペル樽祭りが、2月16日妹背牛温泉ペペルで開催されました。あいにくの天気となりましたが、会場には、職場仲間やお友達同士など多くの人たちが集いました。ビールのほか、日本酒やワインなど様々なお酒が取り揃えられ、温かい味噌おでんやから揚げ、握り寿司なども用意されました。お好みのお酒を片手に楽しげな様子で、会場は終始和やかなムード。

さらに、会の後半には空くじなしのビンゴゲームが行われ、番号が呼ばれるたびに歓声があがり、盛り上がりを見せていました。



## ワカサギ釣りを満喫

2月25日、朱鞠内湖において保育所年長児から小学生の親子を対象としたワカサギ釣りの親子体験事業が行われました。この日の参加は、2組4名の親子と地域おこし隊の5名。インフルエンザの影響のため、当初よりも参加人数が減ってしまいましたが、朱鞠内湖を目指し出発。穏やかな天気、親子でのんびり温かいテントの中で、ワカサギ釣りを楽しめます。参加者全員、ワカサギを釣り上げることができ、子どもたちも大喜びでした。昼食は「せいわ温泉ルオント」で温かいおそばにお弁当、それに釣り上げたワカサギを熱々の天ぷらで頂きました。その後は、温泉に浸かり冷えた身体を温めて、親子でのワカサギ釣りを満喫しました。

